

新津地域景況調査結果の概要(2019年1月～3月期)

2019年1月～3月期の景気動向(DI値による判断)

【全業種】業況DIは、依然としてマイナス圏内。先行き(1～3月)については、横ばいとの見通し。

【建設業】仕入単価DI・採算DIは悪化。採算DIは若干改善するとの見通し。

【製造業】全体的に横ばい。従業員数DIは悪化するとの見通し。

【卸売業】全体的に横ばい。資金繰りDIは改善するとの見通し。

【小売業】全体的に横ばい。仕入単価DI・採算DI・資金繰りDIは悪化するとの見通し。

【サービス業】全体的に横ばい。従業員数DI以外は悪化するとの見通し。

【経営上の問題点】(複数回答可)

多い順に、「需要の停滞」、「ニーズの変化」、「人件費の増加・圧迫」など。

また建設業やサービス業で「人手不足」をあげる回答が散見された。

【設備投資の状況】(複数回答可)

多い順に、「車両運搬具」、「機械」などであるが、全体に低調。

DI値(業況判断指数)について

DI値=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

※実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

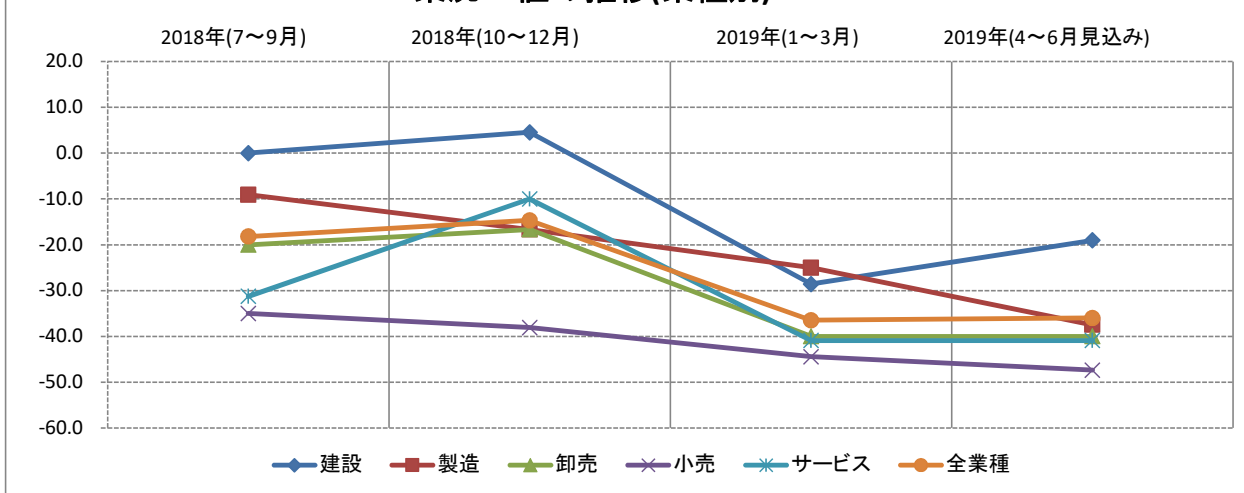
	50 ≤ DI	25 ≤ DI < 50	0 ≤ DI < 25	▲25 ≤ DI < 0	DI < ▲25
DI値	とくに順調	順調	変わらず	悪化	きわめて悪化

▼項目別DI値

※()は見通し4～6月

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
売上高	△ 23.8 (△ 9.5) 	△ 12.5 (△ 25.0) 	0.0 (△ 20.0) 	△ 42.1 (△ 36.8) 	△ 9.1 (△ 13.6) 	△ 21.3 (△ 20.0)
仕入単価	△ 38.1 (△ 33.3) 	△ 12.5 (△ 12.5) 	0.0 (△ 20.0) 	△ 10.5 (△ 21.1) 	△ 13.6 (△ 18.2) 	△ 18.7 (△ 22.7)
採算	△ 42.9 (△ 28.6) 	△ 12.5 (△ 62.5) 	△ 20.0 (0.0) 	△ 15.8 (△ 26.3) 	△ 14.3 (△ 18.2) 	△ 23.0 (△ 26.7)
資金繰り	△ 19.0 (△ 14.3) 	△ 12.5 (△ 12.5) 	△ 20.0 (20.0) 	△ 5.3 (△ 15.8) 	△ 13.6 (△ 18.2) 	△ 13.3 (△ 13.3)
従業員数	14.3 (14.3) 	0.0 (△ 25.0) 	0.0 (0.0) 	△ 26.3 (△ 21.1) 	△ 9.1 (0.0) 	△ 5.3 (△ 4.0)
業況	△ 28.6 (△ 19.0) 	△ 25.0 (△ 37.5) 	△ 40.0 (△ 40.0) 	△ 44.4 (△ 47.4) 	△ 40.9 (△ 40.9) 	△ 36.5 (△ 36.0)

業況DI値の推移(業種別)



この調査は、新津地域の景況動向における企業経営の推移及び動向についての確に把握すべく、全業種を対象に四半期ごとに実施しております。

調査対象: 100事業所(建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業) 回答数75社(回答率75%)

対象期間: 2019年1～3月期実績、2019年4月～6月期の見通しについて

当所では、『消費税転嫁対策相談窓口』を設置し、消費税率の引き上げに伴う円滑・適正な価格転嫁を支援するため、個別相談やセミナーなどを実施しておりますので、どんなことでもお気軽にご相談下さい。